



Title	『精神障害者に当たり前のくらしを』：盛会だった ラモン先生の講演会
Author(s)	石神, 文子
Citation	大阪公衆衛生. 1993, 64, p. 16-17
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83826
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

人物往来

『精神障害者に当たり前のくらしを』

ー盛会だったラモン先生の講演会ー

大阪府枚方保健所保健福祉推進室長

石 神 文 子

去る9月2日、枚方市内の北河内府民センターで「地域へ！共に暮らす精神障害者たち」と題する講演会が開かれた。定員150人の会場だったが、府内・外から申込が多く、50人以上の方をお断わりしなければならなかった。結局290人の市民・精神保健従事者・公衆衛生関係者、そして地域の障害者団体・人権啓発団体の方々が集い、主催者は会場に椅子を運び込むのに大奮だった。

当初この企画は「少し硬いのではないか？」と敬遠する向きもあって、小規模ながら実のあるものにしようと意図された。枚方市にある精神障害者を持つ家族の会「やなぎ会」顧問有田周平氏を代表とする「シュラミット・ラモン氏講演会開催会議」が主催することとなり、事務局を枚方保健所の保健福祉推進室が担当した。



講演中のラモン先生（右の女性）

大阪府環境保健部精神保健室や府精神衛生相談所の強力なバックアップがあったのをは

じめ、大阪府精神障害者家族会連合会の後援、阪本精神病理学研究所や大阪精神医学ソーシャルワーカー協会等の協賛を得ることができたことは望外のよろこびだった。

それにしても、なぜこのようなうれしい誤算が生じたのだろうか。ヨーロッパの精神保健改革にこれほどの関心が集まるということは、我国の精神保健のあり様についても、多くの人々の目が注がれはじめたということではないだろうか。

イギリス・イタリアの精神保健改革

講師シュラミット・ラモン先生は、ロンドン大学経済学部上級講師で、「精神保健における継続的ケア」コースの主任で、去る8月末、千葉県の幕張メッセで開かれた精神保健国際会議に来日されたのを機に、枚方にもお招きすることができたのである。

精神保健従事者の間では、「トリエステ」（イタリア）は、精神障害者が精神病院への入院をせずに、医療をはじめ、さまざまな生活支援を受けながら地域で暮らしてゆくという、世界的に精神保健改革の先駆的な地域モデルとして知られるようになって久しい。また、歴史的に精神障害者問題に福祉（デイケア等）を重視してきたイギリスの精神医療のあり方も、わが国にとっては大きなモデルだった。

ラモン先生は、ヨーロッパの、中でもイギリス・イタリアで近年激しく動いてきている

精神障害者をめぐるノーマライゼーション実現について、実際にその改革に携わってきた精神科医・P S W・看護者等、広範囲の人々と共に、社会的・文化的側面から研究調査されてきた。



満室の聴衆からつぎつぎに質問が…

彼女は、「精神病院では、患者さんは幸せではない、だから……」と話され、イギリスとイタリアではさまざまな問題を抱えながらも、精神障害者が当たり前のように地域で暮らせるように関係者が激しい議論とあくなき実践を繰り返してきたことを話された。中でも、専門家にとっては、今や精神病院を出て、精神障害者の暮らしの場で必要な技術を身につけることが求められていると語られたのは印象的であり、精神保健の改革が、精神保健スタッフの認識の改革を迫ることになっていくことを示されたと思う。

総合司会に張先生に、通訳を西澤氏と香西先生に担当していただくというぜいたくな陣容で、聴衆は終始“耳を離せない”状態で聴き入っていた。

ラモン先生が見た枚方の精神保健

ラモン先生の希望で、講義に先立ち、枚方にある府立中宮病院と2つの作業所・グループホームを見学された。また、講演会開催の挨拶を大塩枚方市市長が、精神保健推進協会々長の立場でされたこと、聴衆の3分の1

をしめた当事者（精神障害者とその家族）やお年寄りの姿が彼女をひどく驚かせたようだった。

国際会議で、日本の精神科入院者が35万人もいると知らされた多くの外国人が、数字の間違いでは？と疑ったという。

ラモン先生もその一人だったわけだが、枚方での見聞を通して「日本のトリエステ？」と感想を述べられたそうだが、少々面映ゆい評価である。

きっと、ラモン先生が出会われた枚方の精神障害者やそれを取り巻くスタッフ・市民の表情が生き生きとしていたのだろう。

いずれにしろ、私は彼女の来訪が、これからの枚方の、大阪の精神障害者の暮らしを変えてゆく大きなきっかけになると信じている。



作業所を見学するラモン先生

